

情報発信事業 ボランティア講座

障害者・高齢者のスポーツやゲームを知ろう
(ボッチャPARTII 再び!)

花ノ木

第 114 号

令和 4 年 11 月 27 日

花ノ木医療
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

H.P <https://kyoto-hananoki.jp/>

10月1日に各病棟・通所・京花園のボランティア委員による情報発信事業「ボランティア講座」障害者・高齢者のスポーツやゲームを知ろう(ボッチャPARTII 再び!)を動画撮影しました。

本来は地域の方や利用者さんに参加、体験していただきながらゲームやボッチャを紹介する予定でしたが、コロナ感染対策のため中止となり、ボランティア委員のみで動画を撮影する事になりました。「残せる動画を」ということもあり、どのように紹介すればわかりやすいか皆で相談しながら、とにかくやってみようという所から撮影がスタートしました。

ぎこちない開会の挨拶収録につづき・・・こまめに撮影を止め、確認しながら進めました。

午前中は通所や病棟で行っ



ているゲームを実際にやりながらの紹介を収録しました。

①スマートボール ②射的
③電動スイッチによるトント
紙相撲 ④引つ張り紙相撲 ⑤
段ボールジエンガの5種類です。
スマートボールでは、ボールを
手で転がすのが難しい方は紐や
籠を使い、トント相撲では電
動マッサージ機の振動を利用し
て装置を作り、操作もビッグス
イッチで簡単にするなど、様々

な工夫も紹介でき、私自身も『今度病棟でこのゲーム借りよう』と興味津々で体験していました。きつと動画を見た方からも反響があるのでは?と思う楽しいゲームでした。

午後からは『ボッチャ』というスポーツの紹介動画の撮影です。高齢者や障害のある方でもできる、パラリンピックの種目にもなっているスポーツで、委員の中には過去に経験がある職員もいたのですが、私は初めてで、資料や動画で勉強してから臨みました。多目的室にビニールテープでラインをひく作業から始まり、ゲームのルールを確認しながら進めました。

ジャックボールと呼ばれる白いボール(的玉)を投げて、赤と青のそれぞれ各6球のボールを投げ、最終的にジャックボールに近い位置のボールチームの勝ちというルールです。チームに分かれ実際にゲームをしている所を撮影しました。ルールは簡単なので、さほど迷う所はありませんでしたが、実際にやってみるとなかなか奥の深いスポーツだなと感じました。今まで自チームの方が優勢だった筈なのに、すぐに劣勢になったり

して最後まで分かりません。

チーム編成を変えたりして何回か撮影していくうちに、プレイヤーの緊張もほぐれ、ボールの行方に歓声があがるようになりました。ボッチャのコートは正規の大きさでなくても、ブルーシートにラインを引いて移動できるミニサイズのコートもあり、実際に作ったものでゲームをしながら収録しました。ボールが転がりにくい事もなく十分に楽しめたので、手軽で良いなあと思いました。今回紹介は出来ませんが、手で投げるのが難しい方でもできるように、レーンのような勾配具(ランプ)もあるようです。事前にみた資料動画では段ボールで作られていました。



緊張した収録で、編集も慣れないため、ぎこちない動画になるかもしれませんが、見た方に興味を持ってもらえたら嬉しいです。

(ボランティア委員 第5病棟

生活支援員 佐藤祐子)

※収録動画は花ノ木HPにUP予定
です。

日中活動の様子

第一病棟

季節も秋になり、きれいな紅葉を見にちよつと散策にでも行きたいそんな季節です。

9月の第1病棟『健寿の集い』では還暦の方2名、喜寿の方1名のお祝いをしました。赤と紫のちゃんちゃんこを着て、病棟内をまわり、お祝いの言葉に手を振って応じておられました。3名のこれまでの軌跡をプロジェクトターで大画面に映すと自分の姿をまじまじと見つめたり、松田聖子の歌が流れると顔をあげて喜んでおられました。夕食ではお祝いにおまんじゅうと水ようかんが出てくると、とても嬉しそうに食べておられました。

先日は、初夏に植えたお芋の収穫をしました。つるを引っ張りお芋が出てくると『お芋や〜』と声を上げ、『○○さんひっぱりや〜』と声援を送る方、芋をバケツ



に入れると『焼き芋せなあかん〜』と言われる方、気合の入った真剣な表情で芋を引っ張る方など、皆さんそれぞれ芋ほりを楽しまれた様子でした。

これからの時期も、クリスマスや正月、節分などイベントが盛りだくさんで、利用者さんの楽しそうな笑顔がたくさん見られそうです。

(第1病棟 生活支援員 利長 岳)

第二病棟

肌寒くなってきた今日このごろ、第2病棟の日中活動の様子を紹介させていただきます。8月にはデザートバイキングを行いました。昨年同様バイキング形式で楽しんでもらう予定をしていましたが、コロナ感染予防のため各部屋で食べていただきました。

経口摂取の方には2種類のケーキから1つ、飲み物はコーヒートリンゴジュースから1つ、ゼリー食の方にはプリンを選んでいただき昼食後に食べてもらいました。皆さんデザートが楽しみなのか、いつもはゆっくり食べている利用者の方も早いペースで食べておられたのが印象的でした。

注入食の方はりんごジュースの注入になりましたが、いつもとは違う雰囲気

気を味わってもらえるようにしました。最近、体を動かす活動で取り組んでいるのは、ジャンボボーリングです。ピンとボールは子ども

の背丈と同じくらいの大ささです。チーム戦、個人戦とよく対戦が行なわれており、ピンが倒れると周囲から歓声があがり、利用者さんには



ぎやかな雰囲気を楽しまれたり、ボールの感触を楽しまれたりと大盛り上がりです。11月以降は、音楽の日、クリスマス会・・・と様々な行事が待っています。

職員一同、利用者さんの笑顔がたくさん引き出せるように行事の準備をすすめています。

(第2病棟 生活支援員 永谷麻弥)

第三病棟

7月に開催された『花ノ木なまつり週間』では第3病棟の利用者さんも参加され、皆さん大いに楽しめました。各病棟からお祭りに合わせた屋台

が出展され、一歩踏み入るだけで非日常にきたような雰囲気が出ていました。

第3病棟からは貸し衣装屋さんを出展。法被や浴衣を身に着け、夏らしい装いにチェンジ。普段とは違う服に皆さん笑顔を見せておられました。職員も浴衣姿の利用者さんを見て、とても新鮮な気持ちになりました。和太鼓の前

に立つと、祭囃子に合わせてドン！ドン！と元気よく太鼓を鳴らす利用者さん。

ボール投げの屋台ではTさんが挑戦。祭囃子に合わせ力強くボールを投げては、早く次のボールを渡して！と言わんばかりに腕を伸ばしておられ、その勢いは職員がボールを渡すのが追い付かない程でした。他の利用者さんも屋台のゲームに積極的に挑戦しておられました。的当てゲームではなんと第3病棟が1位に輝きました！表彰状と景品のシャボン玉機を頂いたので、早速日中の活動で使っています。



厳しい暑さが続き外に出る機会が少なかった夏ですが、まつりを通して季節感を楽しむことが出来ました。

(第3病棟 生活支援員 岩本 舞)

第五病棟

夏以降の感染状況を踏まえ、活動を活発に行えないか色々と検討しています。日々の生活の中で、車椅子に移乗をしたタイミングで、テレビやDVD鑑賞、音楽を聞く、処置や入浴がない日曜日は、手浴や足浴をしました。

また、春から延期になっていた外出活動と、なかなか行けなかったミニ外出の日程も調整し、7月～10月前半にかけ外出活動、ミニ外出ができました。亀岡市内のドライブでは、サンガスタジアムの外周・ガレリア・運動公園・コスモス園を散策など外の空気を感じることができました。遠出のできない方は中庭やセンター周辺・屋上を散歩して、家族室でビデオシアターやリラクゼーションアロマなどの活動をしました。



10月は、ミニ外出、屋上と中庭に出よう！と、病棟全体で取り組みました。当日は肌寒く予定より早めに病棟へ戻り、ビデオシアターやカフェを楽しみました。初めて屋上に出た」「外に

出た時に表情が変わった！」「周りを見て、きよろきよろされていた」「出るだけで楽しかった」など、嬉しい報告が職員からありました。

病棟から出ることは、景色や音・空気が変わり、利用者さんも職員にとっても気分転換の機会となっています。

今後も今の状況でできること、楽しめる活動を病棟全体で工夫していききたいと思っています。

(第5病棟 生活支援員 伊崎藤子)

はなのき通所

通所係では、季節の制作活動を行っています。秋の制作活動では、ぶどう作りをしました。

まず、ティッシュ2枚を職員が手で柔らかく包み込みました。そのふわふわしたティッシュで利用者さんの手や足などをマッサージするように触れていき感触を味わってもらいました。落ち着いた音楽を流し、ゆったりとした空間の中で気持ち良さそうな表情をされる方もおられました。マッサージをするにつれティッシュも丸くなっていき、ぶどうの中身が完成です。手で握ることができる人には、マッサージの後ティッシュをギュッギュッと握ってもらい丸めてもらいました。1人20個ずつ作ってもらい、それを色とりどりの花紙で包んでいき、まとめてくっつけていくとカラフルなぶどうの房が完

成です。葉っぱは、折り紙にクレヨンで線を描いても良かったり、シールを貼ってもらったりする事で、葉っぱの模様をつけてもらいました。



制作したぶどうは居室の天井から吊るしました。天井を見上げると、ぶどう狩りに来たような雰囲気となりました。

なかなか外に出られない事が多いですが、これからも制作活動を行うことで季節を味わっていきたいと思います。

(通所係 生活支援員 藤本愛香)

児童発達支援センター

児童発達支援事業『おひさま』では、多くのクラスで制作(作品作り)に取り組んでいます。2クラスの作品を、10/16開催の亀岡市障がい者福祉大会「つながろう作品展」に出展しました。野菜スタンプで作った「ピザ」と、クレパスや絵の具、シールで作った「おぼけ」です。個性的なピザとおぼけが揃いました。子どもたちが楽しんで作った作品を、多くの方に見てもらいたい機会となりました。お声かけいた

だき、展示等ご協力くださった花ノ木後援会の皆様、ありがとうございます。

放課後等デイサービス「ココはなのき」では、年に3回ある保護者交流会の第2回(10月)を「子どものいいところをみつめよう」ほめかたのコツ」と題して勉強会企画としました。

一般の子育てでは「ほめて育てる」良さが広まっていますが、発達障害やゆっくりと育つお子さんの子育ては、保護者ご自身の受ける多様なストレスから、叱る・怒る場面になりやすい場合があります。保護者の心身のケア、子どもへのポジティブな言葉かけのコツなどを話題にしました。同じ利用日に通う保護者同士が楽しく共に考える機会を作り、子どもさんと保護者が笑顔で帰路につけるよう、今後も交流会を開催していきます。

(こども療育係 心理判定員 高橋良子)



掲示板

給食非常食訓練

10月11日給食による非常食訓練がありました。給食係では、ご利用者や職員の非常食や水などを1週間分程度備蓄しています。賞味期限が切れる頃には普段の食事に使用し、入れ替えを行っています。今回はコロナ感染等で給食職員が少なくなり、通常の食事提供が出来ないことを想定した訓練が行われました。

備蓄している保存食(今回のメニューはお粥、すき焼き、海老と貝柱のクリーム煮を旧給食棟から持ち出し、地域交流棟の休憩室で湯煎。温めている間に病棟毎に仕分けします。その後、各病棟まで運び、使い捨て食器に盛り付けて食事準備は完了です。ゼリー食の方は冷凍食品だった為、病棟の電子レンジで温めて提供しました。

また、災害時にガスが施設内で使用できなくなった場合に備え、外で炊き出しが出来るように屋外でのガス使用方法を施設係から教わりました。

非常食には日付が記載され、順番に取り出しやすいように写真も添えて置いてあり、給食職員以外の他部署の職員でも食事の準備ができるように備えてありました。

食事はご利用者にとって健康状態に関わるだけでなく、楽しみの一つでもあり、非常時に少しでも安心して食べてもらえるように準備が必要です。

今回参加して、非常食だ



けでなく日頃の備えや訓練の大切さを改めて感じる訓練となりました。(第1病棟 生活支援員 山田 渚)

花ノ木の動き

(令和四年七月一日〜令和四年十月三十一日)

- 7/7 所内研修「理事長講話」
情報発信事業「遊びは学び〜乳幼児の発達と探索、それを支える環境とは〜」
情報発信事業「夏の思い出に 家の貯金箱を作ろう」
医管棟・通園棟・児発支センター防災訓練
所内研修「性の多様性と人権・LGBTQ+」
看護実習 京都聖カタリナ高等学校(8日間)
保育実習 花園大学(〜29)
リハビリ臨床実習 大阪保健医療大学(〜10/22)
情報発信事業「発達障害の特性理解と特性から考える支援」
所内研修「個人情報保護・苦情処理」
介護実習 京都医療福祉専門学校(〜25)
インターンシップ 花園大学(〜16)
所内研修「診療報酬改定」
児童発達支援センター防災訓練
新採研修「福祉サービスについて」
看護実習 京都府医師会看護専門学校(〜30)
理事会
情報発信事業「ボランテニア講座 障害者・高齢者のスポーツやゲームを知ろう」
看護実習 京都府医師会看護専門学校(〜7)
所内研修「人事評価制度」
非常食訓練
看護実習 京都先端科学大学(・19)
所内研修「感染対策・基礎技術」
看護実習 明治国際医療大学(・27・28)
総合防災訓練
所内研修「前期医療安全」

ありがとうございました
寄附・寄贈 (敬称略)

寄附 藤森栄子/寺田昭和
寄贈 株式会社 滋賀銀行(デジタル身長計付体重計)



編集後記

今年度から編集委員をさせて頂いています。どうぞよろしくお願いたします。

さて、突然ですが、「メバル」という魚をご存じでしょうか?海釣りをされる方ならご存じのように、寒くなる冬から春にかけて釣りのシーズンを迎える魚です。漢字で「眼張」と書き、名前の通り、目が大きく、外に張り出して、かわいらしい見た目をしています。白身で、煮つけや唐揚げ、30cm程の大きいサイズになるとお刺身でも美味しく頂けます。最近、趣味で釣りをかじっておりますが、このご時世のアウトドアブームで、釣り人口も増加し、気候の良い春から秋は、釣り場が人で溢れています。そんな中、寒くなるこれからの「メバル」は、人混みを避けた人にとってはおススメのターゲットです。本物の餌ではなく、ルアー(疑似餌)を使い簡単な仕掛けで、漁港や堤防などで気軽にできるのも魅力的です。ネックなのは、厳しい寒さに耐えることと、警戒心が強く簡単には釣れないことです。その分、釣れた時の喜びはひとしおです!釣りを楽しむ人が増加する反面で、釣り人のマナーが問われています。荒らされるのを恐れ閉鎖している漁港も増えてしまっているようです。マナーをしっかりと守り、今年、冬の釣りに挑戦してみようと思います!

(編集委員 渡邊絵里)